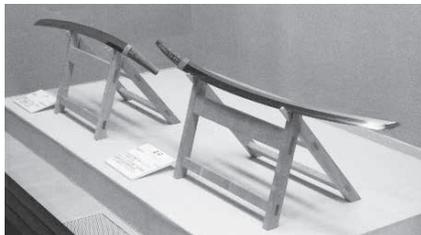




小城市立歴史資料館 * 中林梧竹記念館だより

収蔵刀剣展第4弾を開催します

- ◆日時 2月16日(火)～3月14日(日)
- ◆場所 歴史資料館 常設展示室
- ◆入場料 無料



収蔵刀剣▶
(第3弾展示会の様子)

期間中に小城の歴史講座「武士と刀」も開催します

講師はいまがひろやす今川泰靖さん(研ぎ師、佐賀県立博物館の刀剣も管理されています)です。今回は、刀剣の手入れを交えながらお話しいただきます。

- ◆日時 2月20日(土) 14時
- ◆場所 歴史資料館 研修室
- ◆聴講料 無料(要事前予約・先着25人)

令和2年度「むかしの道具にみる くらしのうつりかわり展」を開催中

昔の生活道具を展示し、現代との生活の違いについて考えるくらしのうつりかわり展を開催中です。

- ◆期間 ～2月28日(日)
- ◆場所 歴史資料館 企画展示室内
- ◆観覧料 無料



▲展示風景

おぎの歴史 * 探検隊

異形の石鳥居<その1>

「肥前鳥居」と呼ばれる石鳥居があります。

戦国時代の末期から江戸時代にかけて、佐賀を中心に、長崎県や福岡県の一部で200基近く造られました。佐賀県内だけで100基を超えていますが、倒壊して存在が忘れられた鳥居もあるようです。その分布が旧国名の肥前国を中心に行っているため肥前鳥居と呼ばれていますが、いつから、誰が命名したかは明らかではありません。

全国で多く見られる一般的な明神鳥居は2本の柱の上に横長の両端の反りが目立つかざぎ笠木と呼ばれる部分と、下部にしまぎ島木と言われる部分があり、そのやや下にぬさ貫を入れて柱を固定しています。

肥前鳥居は笠木端があまり反っておらず、島木部分がほとんど目立ちません。貫・柱が2、3本継ぎで組み立てられており、やや傾いた下が太い柱で、柱上端には台輪と呼ばれる装飾が必ず付けられています。他の鳥居では見られない特徴としては、笠木

の両端が丸みを持って反っています。通常の鳥居では笠木の端は角張って反っていますので、他では決して見られない特性です。

一般的な明神鳥居に比べ、継材で組まれているためか、やや不安定な感じもありますが、柱が太い事もあり重量感にあふれ、どっしりとした落ち着いたさわらひある侍のような風情です。

小城公園の入口にドーンと構えた肥前鳥居があります。銘文には明治21(1888)年建立とありますが、形は江戸時代初期の形を参考に建立されています。

佐賀人にとっては見慣れた鳥居なのですが、他地域の方には見慣れぬ「異形の石鳥居」です。(続)

小城郷土史研究会/著



小城公園の「肥前鳥居」、奥は一般的な明神鳥居▶

❖開館時間 9時～17時 ❖休館日 毎週月曜日・祝日 小城市ホームページから 梧竹・歴史資料館・文化財 検索
【問合せ・申込み】歴史資料館 文化課(桜城館2階) 担当 下川・永田 ☎71・1132